

機械に命を吹き込む、
アナログの魔法。



「目玉ステッカー」物語。

Presented by ポリッシャー.JP

あなたの現場で、機械は「消耗品」ですか？ それとも「相棒」ですか？

消耗品



朝、倉庫のポリッシャーに
「おはよう」と思いますか？

相棒



その視点の違いが、
現場の寿命と空気を劇的に変えるのです。

なぜ人は、何もしないロボットを愛するのか？

「愛されるために生まれた」ロボットは、掃除も洗濯もしません。
それでも50万円の価格で愛されています。
一方で、毎日泥だらけで働く清掃マシンは、
倉庫の隅で忘れ去られていませんか？

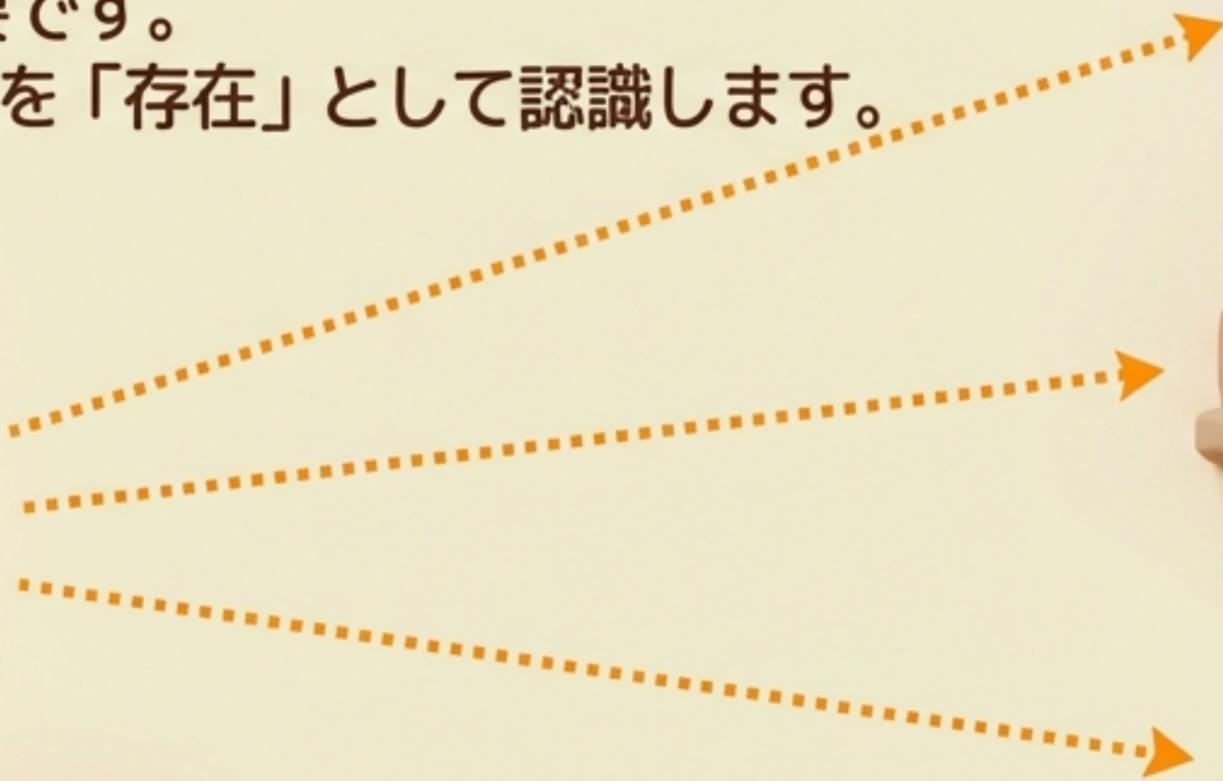


必要なのはAIじゃない。「目」という記号だけ。

シミュラクラ現象

人間の脳は、3つの点が集まると「顔」として認識し、無意識に感情を投影します。

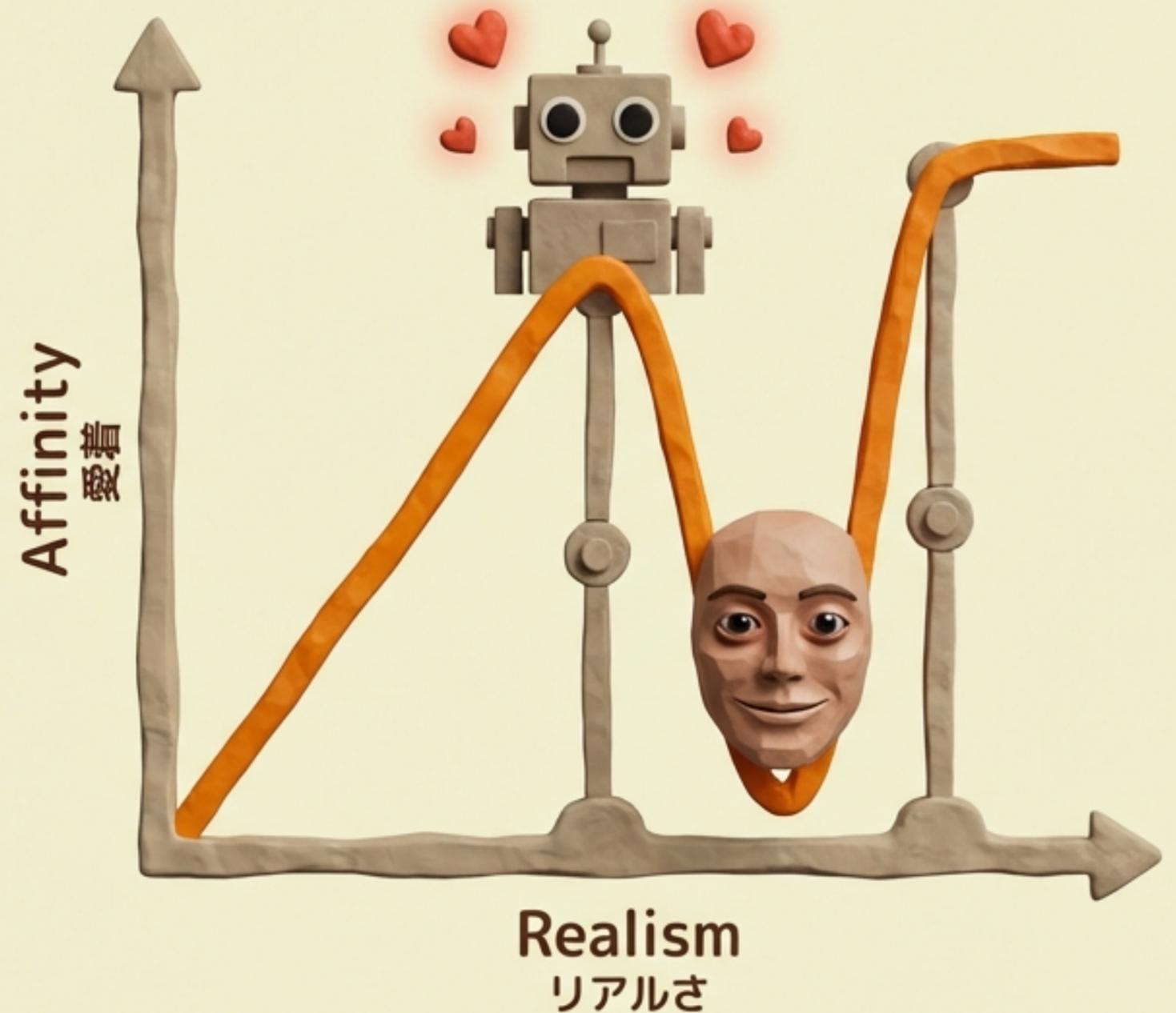
最新のAIや複雑なプログラムは不要です。
ただ「目」があるだけで、脳はそれを「存在」として認識します。



「不気味の谷」を飛び越える、アナログな余白。

リアルすぎると、人は恐怖を感じます。
あえて「記号化された目」を貼ることで、
想像力が入り込む「余白」が生まれます。

50万円のロボットより、
手作業で貼る不格好な愛おしさ。



道具という「檻」から連れ出そう。

貼った瞬間、
ただの「洗浄する機械」が、
共に汗を流す
「現場の戦友」に
変わります。



清掃マシン購入者特典：オリジナル目玉ステッカー



変化① 扱いが変わる。

「壊れてもいい」から「今日も頼むぞ」へ。
名前をつけて呼ぶことで、愛着が湧きます。日々のメンテナンス（拭き上げ・点検）が丁寧になり、結果として故障が減り、寿命が延びるのです。

変化② 会話が生まれる。「カーズみたい!」と笑顔に。

「お客様にも可愛いね!と褒められました」
(岩手県 株式会社キレイプラス S様)

黙々と作業する「黒子」から、
話しかけられる「主役」へ。
無機質な現場に、温かいコミュニケーションが生まれます。



変化③ チームになる。

孤独な作業から「お掃除戦隊」へ。



「まるで『お掃除戦隊』！現場が楽しくなる相棒たち」(岐阜県 特定非営利活動法人 清爽力様)
機械もスタッフの一員。仲間が増えたような感覚が、モチベーションを支えます。

ユーザーの声：現場で生まれた愛着の物語。



“何度も目が合う!笑。
この目に私もやられてるかも”
(岩手県 S様)



“目玉シールを貼ると愛着が湧いて
きて、相棒としてこれから一緒に
頑張ろうと思いました” (愛知県 H様)



“機器に目が付いてる事で
お客様との会話も弾みます”
(東京都 KingFisherメンテナンス 滝澤様)

ポリッシャーとの「無言の対話」が変わる。

ポリッシャーの操作は、機械とダンスを踊るような身体性を伴います。
壁際の繊細な操作、床からの反動、パッドから伝わる微細な抵抗感を
全身の感覚で
読み取りながら行います。



私たちが「目玉」を 贈り続ける理由。

日本には、使い込んだ道具に魂が宿るとい精神があります。
単なる減価償却対象ではなく、
共に苦楽を共にするパートナーとしての敬意。
AIによる「完璧な快適さ」ではなく、
不完全な相棒と育む「手触りのある関係」を。



あなたのマシンにも、命を吹き込みませんか？

特典：清掃マシン購入者様全員にプレゼント。

仕様：水や汚れに強い高品質・光沢PETラミネート加工。



写真と感想の投稿で
1,000 ポイント 進呈中!

照れくさいですか？ ならば、まずは冷蔵庫から。

いきなり現場が恥ずかしければ、
身近な家電や道具箱でも構いません。

日常に「目」がある楽しさを、
まずは遊んでみてください。
きっと、「相棒」が待っている
感覚に気づくはずですよ。



さあ、新しい相棒と現場へ。

ポリッシャー.JP 業務用電動床ポリッシャー販売



www.polisher.jp